

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	作業療法概論		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	中浦俊一郎・中村由美・渡邊悠馬・丸山優子	背景	作業療法士歴22年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学専門分野 作業療法概論 第3版 医学書院				
授業概要	作業療法に必要な一般的な知識を習得する。これによって、今後とも人として、職業人としての自覚を養うと共に在学中に学習する科目への基本的理解を備えるものとする。				
狙いと到達目標	<p>① リハビリテーションの理念、作業療法の位置付けを理解する。          ② 作業療法の歴史的経緯、定義、倫理規定などを理解する。          ③ 実施する対象、場所、領域、業務内容、役割について理解する。          ④ 作業療法について問題意識を持って調べまとめる。</p>				
授業において実務経験をどのように生かすか	老年期、地域における作業療法からどのように障害を捉えていくか、そして障害を抱える中でどのように生活していくかについて具体例を挙げながらよりイメージしやすい内容を考えられる。				
授業計画・内容					
1	作業療法の魅力: 作業療法における作業の意味について作業療法の定義をかみ砕きながら説明していく(授業概要含む)。				
2	作業療法の魅力とは何か: 理論とは何かについて説明し、主な理論について触れ、作業療法を行った先の生活についてイメージ出来るようにする。				
3	専門職としての作業療法士とは何か: 医療職として様々な職種とのかかわりは避けて通れない。他の専門職種とのコミュニケーションの取り方についても学ぶ。				
4	障害受容は本当にできるのか?: 障害を受容するということはどういうことなのか、答えがあるわけではないが、より個人の言葉として表出できるよう、グループワークを通して進めていく。				
5	障害を持つとは①:「人を思いやる気持ち」を持つことができ、具体的にとるべき行動を述べることができるようグループワークを通して進めていく。				
6	障害を持つとは②: 障害体験を実施し、そこから支援のあり方についてグループワークにてまとめていく。				
7	リハビリテーションの歴史、作業療法の歴史: コンパス(進むべき方向を見失わないための道具)として歴史を知り、概略を述べることができる。				
8	作業療法のプロセス: 基本のプロセスと実例を知り、概略を述べられる。				
9	人間を理解して、全体像をとらえるための道具: ICFについて説明することができ、実際に使用することができます。				
10	活動と参加に焦点を当てた作業療法: MTDLPについて説明することができ、自らの生活に照らし合わせて考えられる。				
11	身体障害領域概論: 身体障害の作業療法の対象・場所・内容について説明できる。				
12	老年期障害領域概論: 老年期障害の作業療法の対象・場所・内容について説明できる。				
13	精神障害領域概論: 精神障害の作業療法の対象・場所・内容について説明できる。				
14	発達障害領域概論: 発達障害の作業療法の対象・場所・内容について説明できる。				
15	ポスター発表: 親戚の方に作業療法を分かりやすく説明できるような資料を作成する。				
評価方法	ポスター作成 20%(ポスター作成に関しては作成に至るまでの準備も基準に沿って採点ていき、総合的に判断していきます)。筆記試験 80%				
自由記述 (メッセージ)	作業療法概論はこれから作業療法を学ぶにあたっての基礎となります。分からぬことがあればその都度質問するようにしてください。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	基礎作業学		必修	1年前期	10コマ・20時間			
担当教員	加藤 和貴	背景	作業療法士歴18年					
授業形態	講義	実務家教員 である						
受講ルール	共通ルール+私語は他人に配慮した範囲							
受講条件	日常生活における作業を意識しておく							
教科書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 改定第2版 メジカルビュー社 参考書:「作業」って何だろう 第二版 作業科学入門 医歯薬出版株式会社							
<b>授業概要</b>								
作業療法において作業活動を治療・援助に活用するための基礎を学び、作業分析を試み考察する。								
<b>狙いと到達目標</b>								
身近な作業について作業分析をし考察ができる。 作業について、その意味を知り人間の発達や生活との関わりを説明できる 作業療法の援助技術として作業活動がどのように活用されるかを説明できる								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>								
対象者について考える上で、その作業的存在としてとらえる大切さを実務経験から学んだ。その為の一般的な作業を作業療法の視点で捉える要点を提示していく。								
<b>授業計画・内容</b>								
1	作業学総論「作業って何？」授業概要の説明、作業の定義・分類を知る							
2	人と作業 ① 作業の種類と構成を理解する							
3	人と作業 ② 作業を分析的な視点から考える							
4	作業の効果と治療的応用 作業の持つ効果と適応について学ぶ 限定的作業分析実施							
5	事例検討 限定的作業分析 グループ発表							
6	作業分析の理論 作業分析理論の紹介							
7	包括的作業分析 ① 包括的作業分析の試みる(pedrettiの作業分析)							
8	学習理論 学習理論について学ぶ							
9	包括的作業分析 ② 包括的作業分析 グループ発表							
10	学習理論・指導法 まとめ 基礎的な学習理論 講義内容振り返り							
評価方法	レポート(40%)・筆記テスト(60%)を併せて評価する							
自由記述 (メッセージ)	人間は作業的存在といわれます。作業療法では人は「Do!(～する)」存在と捉えます。皆さんは今朝からこの文章を読むまでどんなことをしてきましたか？山ほどの作業をしてきたのではないでしょうか。まずは身の回りのことから「作業」というものについて考えていきたいと思います。							

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	基礎作業学実習Ⅰ		必修	1年通年	40コマ・80時間			
担当教員	高橋英彦・若松美佐子・青木量二	背景	作業実績30年以上					
授業形態	実技	実務家教員 である						
受講ルール	共通ルール							
受講条件	特になし							
教科書等	特になし							
<b>授業概要</b>								
基礎作業学で学ぶ内容を基本において、作業療法の手段として用いられる代表的な種目について、具体的にその手順・工程を実習し、その基本を学ぶ。								
<b>狙いと到達目標</b>								
技法の基本(特性、必要な身体機能・精神機能、材料・器具の特徴と使用法など)を学ぶと共に、課題作品の制作プロセスを大切にし完成させて得られる達成感を体験する。								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>								
長年の制作活動で得た知識、技術を分かりやすく言葉と実践を交え伝える。実習に臨む心構えとしては失敗を恐れることなく挑戦する姿勢で実習する。自らの失敗経験や成功実体験を多く語り、緊張感の中にも和める講座づくりを目指す。								
<b>授業計画・内容</b>								
1~3	陶芸①講義: やきものとは、土、釉薬、焼成、作業工程、道具について							
4~6	陶芸②実習: 成形作業(玉づくり、紐づくり、たたらづくり)削り、加飾							
7~9	陶芸③電動ろくろ成形							
10~12	陶芸④電動ろくろ成形、素焼き窯詰め作業							
13~15	陶芸⑤素焼き窯出し。釉薬の掛け方。絵付け等の加飾。施釉後の作品の扱い方。							
16	陶芸⑥窯出し、総評、個々の作品への評。							
17~19	織物①定義、歴史と道具、三原組織、手織り機の種類、織物の手順、織物設計、整経。							
20~22	織物②機掛け マフラー、絵織り							
23~25	織物③マフラー、絵織り							
26~28	織物④マフラー、絵織り							
29~31	木工①木の特徴と道具(鋸、鉋、ノミ、糸鋸の使い方)							
32~34	木工②作品(設計)							
35~37	木工③作品(制作)							
38~40	木工④作品(仕上げ)							
評価方法	提出作品、レポート、受講態度などによる。							
<b>自由記述 (メッセージ)</b>								

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	基礎作業学実習Ⅱ		必修	1年後期	30コマ・60時間			
担当教員	丸山優子	背景	作業療法士歴20年					
授業形態	実技	実務家教員である						
受講ルール	共通ルール							
受講条件	特になし							
教科書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 改訂第2版 メディカルビュー社							
<b>授業概要</b> 革細工等の5種類の作業実習を行う。種目担当グループは準備から後片付けまでを行い、技法の基本を指導し、作業分析の結果を発表する。								
<b>狙いと到達目標</b> 作業療法の手段として用いられる種目に対してグループ担当授業を運営し、実際に他者に作業活動を指導することを通して、教授法を学び身につける。また、基礎作業学で学んだ内容を基本において、種目ごとに作業分析を思考し、作業分析の基礎を身につける。								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 対象者が作業に楽しく集中できるようにするための工夫(作業に対する理解を深めること、想像して準備をすること、実習中の配慮・心配り等々)や、作業分析の視点を現場に即して伝え、担当作業運営をする際の理解促進に生かす。								
<b>授業計画・内容</b>								
1~2	オリエンテーション							
3~10	作業準備 (提供作業の選択、作業の特性・技法の理解、提供方法の検討、資料作り等)							
11~13	作業種目① (担当グループが作業提供をし、指導運営する)							
14~16	作業種目② (担当グループが作業提供をし、指導運営する)							
17~19	作業種目③ (担当グループが作業提供をし、指導運営する)							
20~22	作業種目④ (担当グループが作業提供をし、指導運営する)							
23~25	作業種目⑤ (担当グループが作業提供をし、指導運営する)							
26~27	作業分析実施 (作業の手順、道具材料、必要な感覚・認知・運動、心理・対人関係の側面等)							
28~29	作業分析発表							
30	作業分析レポート作成							
評価方法	担当した種目の準備・運営・指導(50%)、作業分析レポート(50%)							
<b>自由記述</b> (メッセージ)								

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	身体障害作業療法評価学		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	中浦俊一郎・中村由美・渡邊悠馬	背景	作業療法士歴22年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(指示があった場合に適用)				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第3版 医学書院				
授業概要	「評価するとはどういうことか・何のために行っているか」の理解を深め、それぞれの評価方法の意味と実際の手順を学び、疾患ごとに必要な評価を列挙することが求められる。				
狙いと到達目標	<p>一般目標: 対象の方の状態における情報を適切に収集し、評価計画を立案できる</p> <p>行動目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①疾患毎の評価項目を列挙できる</li> <li>②それぞれの評価の概要について説明できる</li> <li>③それぞれの評価手順をリスク管理も交えながら説明できる</li> </ul>				
授業において実務経験をどのように生かすか	様々な疾患の方へ関わらせて頂いた経験から評価を行う際の配慮なども伝え、教科書の知識に留まらない臨床現場の空気感も伝えられる。				
授業計画・内容					
1	授業オリエンテーション(中浦)				
2					
3	脳卒中の対象者の評価ができるようになるための知識(概要と手順)を習得していく(中浦)				
4	ブルンストロームステージ、筋緊張検査、腱反射、病的反射を中心に展開していく。				
5					
6					
7	脳卒中の対象者の評価ができるようになるための知識(概要と手順)を習得していく(渡邊)				
8	感覚検査、簡易上肢機能検査、脳神経検査、バランス検査を中心に展開していく。				
9					
10	脊髄小脳変性症の対象者の評価ができるようになるための知識(概要と手順)を習得していく(渡邊)				
11					
12	脊髄損傷の対象者の評価ができるようになるための知識(概要と手順)を習得していく(中村)				
13					
14	リウマチの対象者の評価ができるようになるための知識(概要と手順)を習得していく(中村)				
15	パーキンソン病の対象者の評価ができるようになるための知識(概要と手順)を習得していく(中村)				
評価方法	筆記試験100%				
自由記述 (メッセージ)	教科書の他にも「病気がみえる Vol.7 脳・神経 メディックメディア第2版」や「ベッドサイドの神経の診かた 南山堂」も参照してください。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	精神障害作業療法評価学		必修	2年前期	15コマ・30時間			
担当教員	加藤 和貴	背景	作業療法士歴18年					
授業形態	講義	実務家教員	である					
受講ルール	共通ルール+私語は他人に配慮した範囲							
受講条件	特になし							
教科書等	教科書:精神疾患の理解と精神科作業療法 朝田隆 他 中央法規出版 参考書:精神障害と作業療法 山根寛 三輪書店 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 メジカルビュー社							
<b>授業概要</b> 精神領域における評価の視点を学び、それらを統合し全体像をとらえ考察を行う。								
<b>狙いと到達目標</b> 精神障害領域における作業療法評価の基礎を学び、それを説明できる。 対象者を広い視野で共感的に理解する態度を養う。								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 対象者について評価を行う上で、教科書に書かれている基本的な視点を実際に援用する際の要点について伝え、得られた結果から妥当性のある考察に辿りつく思考を養う。								
<b>授業計画・内容</b>								
1	授業概要 授業の流れを理解できる。 他者評価の前に行うべきことを考え深める。							
2	精神科評価の特徴を説明できる							
3	観察の概要を学び実施する①							
4	観察の概要を学び実施する②							
5	面接の概要を学び実施できる							
6	情報収集の概要を説明できる							
7	精神機能の概要を説明できる							
8	身体機能の概要を説明できる							
9	集団と場について説明できる							
10	コミュニケーションの概要を説明できる							
11	防衛機制・欲求の階層について説明できる							
12	日常生活能力・社会生活能力について説明できる							
13	課題遂行能力・職業関連能力について説明できる							
14	全体像と考察の概要を説明できる。 事例を通して作業療法評価の基礎を確認する。							
15	質疑応答 振り返り							
評価方法	筆記試験							
自由記述 (メッセージ)	「他者を評価する」この言葉から受ける印象はいかがでしょう。ある人は傲慢な印象を抱くかもしれません。しかし評価することなしに焦点を絞った援助はできません。病的側面だけを見て悪く評価をすることが誤りであることはもちろん、過剰に良く評価しそることも対象者の可能性を狭める可能性があります。まずは自分を客観的に捉えてみましょう。スタートラインは「自分と向き合うこと」です。							

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	発達障害作業療法評価学	必修	2年前期	10コマ・20時間				
担当教員	温井 恵	背景	作業療法士歴15年					
授業形態	講義	実務家教員 である						
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)							
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること							
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第2版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社							
<b>授業概要</b>								
発達のつまずきを読み取るために運動、感覚、認知、社会的機能の正常発達を理解する。正常発達を理解した上で、その後必要となる能力の推察や環境設定におけるまで標準化された評価法だけでなく、観察から必要な情報を読み取り、支援計画立案に結びつけられるよう学習していく。								
<b>狙いと到達目標</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常発達を正しく理解し、時系列的なつながりについて説明が出来る。</li> <li>・対象児・者および家族の支援計画立案のため、必要な情報を収集、整理して全体像を把握し、治療仮説を立てることができる。</li> </ul>								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>								
発達障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っている。発達のつまずきに対し、アプローチだけでなく、将来を見据えての役割の構築と社会への参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに、実技にて問題点を把握するための評価視点を養い、実務に生かしていく。								
<b>授業計画・内容</b>								
1 発達障害領域における作業療法評価とは								
2 正常発達の理解①								
3 正常発達の理解②								
4 感覚と感覚統合療法								
5 認知機能の評価								
6 手の発達と評価								
7 口腔機能身辺処理(ADL)の評価								
8 社会的機能の評価								
9 遊びの発達と評価								
10 行動観察と問題点の整理								
評価方法	定期試験 実技、グループワークへの参加							
自由記述 (メッセージ)	本講は人間がどのように成長・発達し社会生活が営めるまでになるかを発達学的、神経心理学的に学ぶものである。人や自分自身に対して興味を持ち、お互いを尊ぶ気持ちを持って臨み、作業療法士を志す学生としてどのような援助につなげていきたいかをイメージし、学びとしてほしい。							

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	身体障害作業療法評価学実習		必修	1年後期	30コマ・60時間
担当教員	渡邊悠馬 温井恵	背景	作業療法士歴6年		
授業形態	実技	実務家教員	である。		
受講ルール	共通ルール・実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 新・徒手筋力検査法 原著 第9版 協同医書				
<b>授業概要</b>					
検査・測定法の原理および実技の知識を身に付けた後に、学生2～3人1組になって実技習得のための実習を行う。隨時小テストを実施する。					
<b>狙いと到達目標</b>					
身体障害領域で用いられる検査・測定法の目的・実施手順・実施上の留意点を理解し、基本的な方法で測定を実施できる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>					
教科書的な知識に加え、臨床での応用などを伝えることができる。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	関節可動域測定の意義				
2	関節可動域測定(肩甲帯屈曲～肩関節伸展)				
3	関節可動域測定(肩関節外転～肘関節伸展)				
4	関節可動域測定(前腕回内～手関節尺屈)				
5	関節可動域測定(母指MP関節屈曲～手指内転)				
6	関節可動域測定(股関節屈曲～膝関節伸展)				
7	関節可動域測定(足関節屈曲～足部内転)				
8	関節可動域測定(頸部・体幹)				
9	まとめ・別法				
10	小テスト(関節可動域測定)				
11	バイタルサイン測定(血圧、脈、呼吸、SpO2)				
12	意識障害(Japan Coma Scale、 Glasgow Coma Scale)				
13	認知検査①(長谷川式簡易知能評価スケール・Mini-Mental State Examination)				
14	認知検査②				
15	認知検査③				
16	形態計測				
17	まとめ・小テスト(11～16)				
18	徒手筋力測定の意義				
19	徒手筋力測定(肩関節屈曲～肩関節内旋)				
20	徒手筋力測定(肘関節屈曲～前腕回内)				

21	徒手筋力測定(手関節屈曲～PIP・DIP屈曲)
22	徒手筋力測定(MP伸展～母指IP屈曲)
23	徒手筋力測定(母指MP伸展～対立運動)
24	徒手筋力測定(肩甲骨外転・上方回旋～肩甲骨下制)
25	徒手筋力測定(股関節屈曲～股関節内転)
26	徒手筋力測定(股関節外旋～膝関節伸展)
27	徒手筋力測定(足関節底屈～足背屈・外返し)
28	徒手筋力測定(頭部伸展～頸部回旋)
29	徒手筋力測定(体幹伸展～体幹回旋)
30	まとめ・小テスト(徒手筋力測定)
評価方法	小テスト30% 実技試験70%
自由記述 (メッセージ)	

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科										
授業名・属性	身体障害作業治療学 I		必修	2年前期	8コマ・ 16時間								
担当教員	中浦俊一郎・渡邊悠馬	背景	作業療法士歴22年										
授業形態	講義	実務家教員 である。											
受講ルール	共通ルール												
受講条件	特になし												
教科書等	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 医学書院												
<b>授業概要</b> 作業療法における基本的な治療手技・原理について、目的・方法などを学ぶ。また、SOAP(問題志向型記録)での記録方法を学ぶ。													
<b>狙いと到達目標</b> 評価と治療の繋がりを踏まえた上で、作業療法における基本的な治療手技・原理について説明することができる。 SOAP(問題志向型記録)について説明することができる。													
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 治療理論だけでなく、臨床で経験した事例の情報を提示しながら進めていく。													
<b>授業計画・内容</b>													
1 オリエンテーション													
2 関節可動域の維持・拡大													
3 筋力と筋持久力の維持・増強													
4 筋緊張異常とその治療													
5 協調運動障害とその治療													
6 感覚・知覚再教育													
7 運動制御理論と運動学習													
8 作業療法の治療記録の書き方(SOAP)													
評価方法	筆記試験												
自由記述 (メッセージ)	この授業で基礎的な治療手技・原理を理解し、疾患ごとの治療法の理解(身体障害作業治療学 II)、実技(身体障害作業治療学実習)へと発展させていって欲しい。												

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	身体障害作業治療学Ⅱ		必修	2年後期	20コマ・40時間			
担当教員	温井 恵	背景	作業療法士歴15年					
授業形態	講義	実務家教員 である						
受講ルール	共通ルール							
受講条件	解剖学、生理学、神経内科学、整形学の復習							
教科書等	ゴールドマスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第2版 メジカルビュー社 医学書院 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 医学書院 参考:病気が見える Vol.7 脳・神経 メディックメディア その他 適時資料配布							
<b>授業概要</b> 身体障害領域の作業療法の考え方と疾患、障害の違いによる、具体的な治療・訓練—方法、援助方法を事例や画像を利用しながら実践的に学ぶ。								
<b>狙いと到達目標</b> ・身体障害領域の各種疾患に起因する機能障害を理解し、その障害の改善や生活機能障害の軽減方法を説明できる。 ・評価学、治療学Ⅰからの学びをベースに症例毎の作業療法治療について説明でき、その疾患に起因したキーワードを想起できる。								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 身体障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っており、年々その分野や範囲も拡がっている。退院後の社会復帰や参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに症例による違いやリスク面への配慮も含めて援助につながるよう実務へ生かしていく。また、実際に臨床で活躍するOTの講義を聞くことでより臨床をイメージできる構成とした。								
<b>授業計画・内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 身体障害領域における疾患別治療の実際</li> <li>2~3 脳血管疾患</li> <li>4 頭部外傷</li> <li>5~6 頸髄損傷</li> <li>7~8 頸椎症性脊髄症、その他脊髄疾患</li> <li>9~10 多発性硬化症、ギランバレー症候群、筋疾患(筋ジス、筋炎)、重症筋無力症</li> <li>11~12 筋委縮性側索硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症脱髓性疾患</li> <li>13~14 関節リウマチ 手の骨折 腱板損傷 熱傷など</li> <li>15~16 手の末梢神経損傷 手の屈筋腱断損傷 その他整形疾患</li> <li>17~18 呼吸器疾患 心臓疾患</li> <li>19~20 癌 その他内部疾患など</li> </ul>								
評価方法	筆記試験							
自由記述 (メッセージ)	本講は身体障害分野において作業療法がどのように実践されているかを疾患毎に学ぶものである。年々分野の拡がる身体障害分野においてどのような治療、援助が社会参加への手助けとなるか、外部講師からの臨床での症例なども聞くことが出来る構成となっているため、臨床を身近に感じながら意欲をもって参加してほしい。							

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科																		
授業名・属性	精神障害作業治療学 I		必修	2年前期	8コマ・16時間																
担当教員	丸山 優子	背景	作業療法士歴20年																		
授業形態	講義	実務家教員である																			
受講ルール	共通ルール																				
受講条件	特になし																				
教科書等	精神障害と作業療法 新版 三輪書店																				
授業概要	講義・グループワークを通じて、精神障害に対する概念の変遷と作業療法の理念を学び、精神科作業療法の基本的役割を理解する。精神科作業療法の治療構造について学び、作業療法実践の場がもつ特徴について理解を深める。																				
狙いと到達目標	対象となる疾患・障害についての社会的・生物学的背景について理解を深め、精神科における作業療法の役割・実施形態・治療者のあり方などを知り、説明できる。																				
授業において実務経験をどのように生かすか	作業療法中の対象者のエピソードや、現場での気付き等を示すことを通して、作業療法の持っている力や効果、構造作りの大切さなどの理解が深まるように生かしていきたい。																				
授業計画・内容	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>精神の病と作業療法の歴史</td></tr> <tr><td>2</td><td>精神の病と作業療法の歴史</td></tr> <tr><td>3</td><td>精神の病と障害</td></tr> <tr><td>4</td><td>精神科作業療法の治療構造(時間・場)</td></tr> <tr><td>5</td><td>精神科作業療法の治療構造(作業活動)</td></tr> <tr><td>6</td><td>精神科作業療法の治療構造(集団)</td></tr> <tr><td>7</td><td>精神科作業療法の治療構造(治療者)</td></tr> <tr><td>8</td><td>作業療法の実施形態</td></tr> </table>					1	精神の病と作業療法の歴史	2	精神の病と作業療法の歴史	3	精神の病と障害	4	精神科作業療法の治療構造(時間・場)	5	精神科作業療法の治療構造(作業活動)	6	精神科作業療法の治療構造(集団)	7	精神科作業療法の治療構造(治療者)	8	作業療法の実施形態
1	精神の病と作業療法の歴史																				
2	精神の病と作業療法の歴史																				
3	精神の病と障害																				
4	精神科作業療法の治療構造(時間・場)																				
5	精神科作業療法の治療構造(作業活動)																				
6	精神科作業療法の治療構造(集団)																				
7	精神科作業療法の治療構造(治療者)																				
8	作業療法の実施形態																				
評価方法	筆記試験																				
自由記述 (メッセージ)																					

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科																		
授業名・属性	精神障害作業治療学Ⅱ		必修	2年後期	20コマ・40時間																
担当教員	丸山 優子	背景	作業療法士歴20年																		
授業形態	講義・グループワーク	実務家教員である																			
受講ルール	共通ルール																				
受講条件	特になし																				
教科書等	精神障害と作業療法 新版 三輪書店																				
授業概要	<p>講義を通じて、精神障害領域の代表的な疾患について、概要・実践される作業療法の特徴・禁忌事項等について説明する。また、グループワークやレポート作成を通じて、病をもつことのつらさや心象風景を考察し、理解しようと努力する姿勢を養う。</p>																				
狙いと到達目標	<p>これまでに学んできた精神機能や精神医学の知見を総合することにより、精神科の代表的な疾患に必要な知識と技術を説明することができる。また、精神の病を持ちながら生活する人に対する理解を深め、自分なりに説明することができる。</p>																				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>実際の対象者さんの様子や、悩んでいること等の心の動きを紹介することで、疾患を持つ人という観点のみならず一人の人としての理解を深められるよう生かしていく。</p>																				
授業計画・内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1～5</td><td>統合失調症の作業療法</td></tr> <tr><td>6～9</td><td>気分障害の作業療法</td></tr> <tr><td>10～12</td><td>神経症圏の作業療法</td></tr> <tr><td>13～15</td><td>パーソナリティー障害の作業療法</td></tr> <tr><td>16～17</td><td>物質関連障害の作業療法</td></tr> <tr><td>18</td><td>てんかんの作業療法</td></tr> <tr><td>19</td><td>摂食障害の作業療法</td></tr> <tr><td>20</td><td>児童期・思春期の精神障害における作業療法</td></tr> </table>					1～5	統合失調症の作業療法	6～9	気分障害の作業療法	10～12	神経症圏の作業療法	13～15	パーソナリティー障害の作業療法	16～17	物質関連障害の作業療法	18	てんかんの作業療法	19	摂食障害の作業療法	20	児童期・思春期の精神障害における作業療法
1～5	統合失調症の作業療法																				
6～9	気分障害の作業療法																				
10～12	神経症圏の作業療法																				
13～15	パーソナリティー障害の作業療法																				
16～17	物質関連障害の作業療法																				
18	てんかんの作業療法																				
19	摂食障害の作業療法																				
20	児童期・思春期の精神障害における作業療法																				
評価方法	筆記試験																				
自由記述 (メッセージ)																					

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科											
授業名・属性	発達障害作業治療学 I		必修	2年前期	10コマ・20時間									
担当教員	温井 恵	背景	作業療法士歴15年											
授業形態	講義	実務家教員 である												
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)													
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること													
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第2版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社													
<b>授業概要</b> 発達障害作業療法評価学において学んだ知識を基盤とし、そこからの問題点把握、どのような援助方法、計画立案となるかにつなげていきながら実際の治療方法に必要な基本的な考え方、技法について理解する。														
<b>狙いと到達目標</b> ・発達障害作業療法においてどのような治療、援助方法があるか述べる事が出来る。 ・実技を通じて基本的な治療、援助方法について立案、実践することが出来る。														
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 発達障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っている。発達のつまずきに対し、アプローチだけでなく、将来を見据えての役割の構築と社会への参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに、実技にてどのような治療手段や技法があるかを考察し、実務へ生かしていく。														
<b>授業計画・内容</b>														
1	発達障害領域における治療とは													
2	家族支援の実際													
3	姿勢コントロールへのアプローチ													
4	遊びについて													
5	手の操作性向上と身辺処理(ADL)能力獲得について													
6	摂食・嚥下機能とコミュニケーションについて													
7	感覚統合理論に基づいたアプローチ①													
8	感覚統合理論に基づいたアプローチ②													
9	知的障害に対するアプローチ													
10	総括													
評価方法	筆記・実技試験、グループワークへの参加													
自由記述 (メッセージ)	本講は発達障害分野において作業療法がどのように実践されているかを学ぶものである。発達障害分野においてどのような治療、援助が社会参加への手助けとなるか、作業療法士としての役割意識だけでなく、環境や社会が行っていくべき課題にも興味を持ち、取り組んでほしい。													

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	発達障害作業治療学Ⅱ		必修	2年後期	20コマ・40時間			
担当教員	温井恵・飛田孝行	背景	作業療法士歴15年					
授業形態	講義	実務家教員 である						
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)							
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること							
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第2版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社							
<b>授業概要</b> 発達障害領域の作業療法の考え方と疾患、障害の違いによる、具体的な治療・訓練―方法、援助方法を事例や画像を利用しながら実践的に学ぶ。								
<b>狙いと到達目標</b> ・発達障害領域の各種疾患に起因する機能障害を理解し、その障害の改善や生活機能障害の軽減方法を説明できる。 ・評価学、治療学Ⅰからの学びをベースに症例毎の作業療法治療について説明できる。								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 発達障害作業療法分野において、作業療法士は多くの役割りを担っている。発達のつまずきに対してのアプローチだけでなく、将来を見据えての役割の構築と社会への参加を意識した関わりが求められているため、本講での学びをベースに、症例による違いやリスク面への配慮も含めて社会参加への援助につながるよう実務へ生かしていく。								
<b>授業計画・内容</b>								
1	発達障害領域における疾患別治療の実際							
2~3	脳性まひ							
4~5	重症心身障害(てんかんを含む)							
6~7	脳血管疾患、脳外傷、脳炎、脳外科疾患など							
8~9	神経・筋疾患							
10~11	骨・関節疾患(脊髄性筋萎縮症・筋ジストロフィーなど)							
12	分娩麻痺							
13	染色体異常(ダウン症など)							
14~15	知的障害							
16~17	自閉症スペクトラム							
18~19	注意欠陥多動性障害 学習障害など							
20	総括							
評価方法	筆記・実技試験、グループワークへの参加							
自由記述 (メッセージ)	本講は発達障害分野において作業療法がどのように実践されているかを疾患毎に学ぶものである。発達障害分野においてどのような治療、援助が社会参加への手助けとなるか、外部講師からの臨床での症例なども聞くことができる構成となっているため、臨床を身近に感じながらより意欲をもって参加してほしい。							

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	老年期障害作業治療学		必修	2年前期	10コマ・ 20時間			
担当教員	中村 由美	背景	作業療法士歴11年					
授業形態	講義・グループワーク	実務家教員	である					
受講ルール	共通ルール							
受講条件	特になし							
教科書等	標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版 医学書院 ¥4,320							
<b>授業概要</b> 高齢者障害に対する作業療法を実践できるようになるために高齢者の特徴や取り巻く環境を踏まえた作業療法を理解する。								
<b>狙いと到達目標</b> ①高齢者を取り巻く環境について説明できる。 ②高齢者の特徴を説明できる。 ③認知症の定義と分類、代表疾患とその症状を理解する。 ④患者情報から必要な評価計画を立てられる。 ⑤評価結果から全体像をつかみ、目標立案、治療プログラムまでを立案できる。								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 高齢者の特徴や作業療法について説明する際、実務で経験したことを事例として紹介することで理解を深める手助けとする。								
<b>授業計画・内容</b>								
1	・授業全体の目標確認と評価方法を理解し説明できる。 ・高齢者を取り巻く環境・高齢者の特徴(老化)を理解する。							
2	高齢者の特徴(好発疾患と生活障害)を理解し説明できる。 (神経・循環器・呼吸器・運動器・内科・精神科疾患・廃用症候群)							
3	高齢者作業療法の実践の流れを理解し説明できる。 (高齢者の人権と尊厳・生活の見方・評価・目標設定・治療)							
4	認知症の定義・分類・代表疾患と症状を理解し説明できる。							
5	認知症の作業療法の評価の種類と内容を理解し説明できる。							
6	病期・実践場所に応じた作業療法の違いを説明できる							
7	ケーススタディー①要介護者の事例(グループワーク)							
8	ケーススタディー②重度認知症高齢者の事例(グループワーク)							
9	高齢者の転倒予防とリスク管理							
10	高齢者の作業療法まとめ							
評価方法	筆記試験100%							
自由記述 (メッセージ)	・教科書第3章の事例は読んでおくこと。							

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	高次神経障害作業治療学		必修	2年前期	10コマ・ 20時間
担当教員	杉村 誠一郎	背景	作業療法士歴14年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学				
授業概要	失語, 失行, 失認, 注意障害, 記憶障害, 遂行機能障害などの高次神経障害を事例を用いて理解し, 評価しその結果からの解釈について考察し, 作業療法介入について学習する.				
狙いと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高次神経障害の概念, 症状を列挙することができる</li> <li>・高次神経障害の評価について説明することができ, 実施することができる</li> <li>・高次神経障害の日常生活場面での困難さを説明することができる</li> <li>・高次神経障害の作業療法介入の原則を説明することができる</li> </ul>				
授業において実務経験をどのように生かすか	日々の臨床における高次神経障害患者の事例を多く挙げ, 臨床現場での考え方や介入実例といった経験を生かす				
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高次神経機能障害オリエンテーション</li> <li>2 脳画像の知識の整理</li> <li>3 失語症・失行(行為の障害)の概念, 評価, 介入</li> <li>4 失認・半側空間無視の概念, 評価, 介入</li> <li>5 記憶障害・注意障害の概念, 評価, 介入</li> <li>6 遂行機能障害・認知症の概念, 評価, 介入</li> <li>7 社会的行動障害の概念, 評価, 介入</li> <li>8 高次神経障害の評価について理解する</li> <li>9 高次神経障害の治療について理解する</li> <li>10 高次神経障害を体験する,まとめ</li> </ol>				
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)	見た目だけではわからない高次神経障害を有する対象者を理解するためには、それまでに学習した様々な知識と技術が必要となります。噛み砕いて理解しやすい授業を心がけますが、適宜、自身の知識の整理を行うよう努めてください。				

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科											
授業名・属性	身体障害作業治療学実習		必修	2年通年	30コマ・ 60時間									
担当教員	中村由美・中浦俊一郎・渡邊悠馬		背景	作業療法士歴11年										
授業形態	実技	実務家教員 である												
受講ルール	共通ルール													
受講条件	動きやすい服装(スカート不可)													
教科書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 医学書院													
<b>授業概要</b> 身体障害作業療法を実践できるようになるために、身体機能障害の治療原理を理解し治療が行えるようになる。														
<b>狙いと到達目標</b> ①各治療主義の基礎知識(治療の目的・障害の原因・治療主義・留意点)を説明できる。 ②各治療主義の主たる手技を実施できる。 ③神経生理学的治療主義の概要を理解し説明できる。 ④事例を通して臨床像と身体機能をとらえ適切な評価、治療を考案、実施できる。														
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 臨床での経験を生かして実技指導を行う。														
<b>授業計画・内容</b>														
1	オリエンテーション・治療を行う上での注意点													
2~3	関節可動域訓練													
4	筋力・筋持久力訓練													
5	筋緊張異常の治療													
6	協調性訓練													
7	感覚障害の治療													
8	バランス訓練(立位・座位)													
9	上肢機能訓練													
10~11	症例検討①	3グループに各教員1名とし教員は症例を1例ずつ担当。 1)事例を提示。 2)担当教員が治療をやってみせる。 3)学生は観察から上記①②の課題を実施(ディスカッション)。 4)全学生が対教員で治療を模倣して実施。												
12~13	症例検討②													
14~15	症例検討③													
16	症例検討(総合) ①事前のペーパー情報の統合から評価計画を立てる。 ②患者役の教員に対し適切な評価を実施。 ③評価結果から問題点を抽出する。 ④治療プログラムを考案し説明、実施する。 ⑤治療者として適切な態度で対象者(教員)に接する。													
17														
18														
19														
20	当事者実習オリエンテーション													
21~30	CVA当事者実習(グループワーク・個人作業) 当事者の方に対し実際に評価・プログラム作成まで行う ①当事者に対して評価計画を立てる。 ②評価計画に基づき評価を行う。 ③治療者として適切な態度で対象者(当事者)に接する。 ④評価結果をまとめ考察、治療プログラム立案まで行う。 ⑤①を当事者と共有し治療を実施する。													
評価方法	実技試験70%・レジュメ30%													
自由記述 (メッセージ)	* 実技は繰り返し友達同士で練習すること。 * 貴重な経験をさせていただく当事者に感謝し本気で向き合うこと！													

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科									
授業名・属性	精神障害作業治療学実習		必修	2年通年	30コマ・60時間							
担当教員	加藤和貴、丸山優子	背景	作業療法士歴18年									
授業形態	実技	実務家教員	である									
受講ルール	共通ルール+私語は他人に配慮した範囲											
受講条件	特になし											
教科書等	教科書:統合失調症の作業療法の進め方 堀田英樹 中山書店 参考書:精神疾患の理解と精神科作業療法 朝田隆 他 中央法規出版 臨床作業療法 山根寛 金剛出版											
<b>授業概要</b> 実際に行われている評価法やプログラムを演習する中で、その運営や適切な態度・行動・関係・役割を学ぶ。												
<b>狙いと到達目標</b> 治療を進める上で求められることを、精神障害作業療法評価学・治療学で学んだ知識・技術に基づいて具体的かつ体験的に理解する。併せて学生自身の自己理解を深め、意識的に自己の治療的活用ができる。												
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 職務を遂行する上で最も有益だったのは当事者、先人たちから学んだ経験知である。 そして対象者について考える上で作業的存在としてとらえる大切さを実務経験から学んだ。 それらを踏まえ作業療法の視点で捉える要素や要点を提示していきたい。												
<b>授業計画・内容</b>												
1	授業概要、身につけておくべき知識の確認 ロジャーズ 援助者の条件を学ぶ											
2	アロマセラピープログラム											
3	実際に観察と記録を行う											
4	記録の振り返り											
5	COPMを理解する											
6	COPMを実施する											
7	インテーク面接の目的・流れを理解する											
8	ヘルピングスキルを学ぶ											
9	構成的作業面接(箱作り方)概要を知る											
10	構成的作業面接(箱作り方)を実施する											
11	治療的コミュニケーションを学ぶ											
12	レクリエーションの概要と準備											
13	SSTの理論的背景・技法を学ぶ											
14	SSTを実施する											
15	各班毎にレクリエーションを実施①											
16	各班毎にレクリエーションを実施②											
17	レクリエーションを振り返り集団因子を理解する											

18	就労の概要を知る 働くことについて考える
19	ケーススタディー(丸山)
20	ケーススタディー(丸山)
21	当事者講演を聞き質疑応答 多摩棕櫚亭協会
22	多摩棕櫚亭協会 訪問 (各グループごとに日にちが違います。事前掲示します)
23	ケーススタディー(丸山)
24	ケーススタディー(丸山)
25	ワークショップ 絵本作り①を体験する
26	ワークショップ 絵本作り②を体験する
27	ケーススタディー(丸山)
28	クライシスについて考える
29	リラクセーションを体験する
30	振り返り・質疑応答
評価方法	レポート(40%)・筆記テスト(60%)を併せて評価する
自由記述 (メッセージ)	精神科で行われている作業療法の一部を体験し、その治療構造への理解を深めることで、明確な意図を持って対象者と関わっていけることを目指します。 行う作業活動の何が楽しくて何が大変なのか。様々な演習を通して実感してほしいと思います。

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	日常生活活動援助学		必修	2年前期	15コマ・30時間			
担当教員	中浦 俊一郎	背景	作業療法士歴22年					
授業形態	講義	実務家教員 である						
受講ルール	共通ルール							
受講条件	特になし							
教科書等	「ADLとその周辺－評価・指導・介護の実際」 医学書院							
<b>授業概要</b>								
ADLの各項目を「いつ」「どこで」「誰が(と)」「何を」「どのように」「なぜ」行うのかという視点から分解していく。普段何気なく行っている日常生活を作業療法の視点により分解する作業を行う事で評価の目を養っていく。								
<b>狙いと到達目標</b>								
一般目標: 作業療法士として日常生活活動に関する評価・介入・指導が出来るための知識・技能・態度を身につける 行動目標: ①各項目における正常な動作との比較から目的や原理について説明できる ②ADL評価であるFIMやBIを用いて事例を読んで判定することができる								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>								
訪問作業療法に携わる中で、利用者様の個々の日常生活を環境との相互作用の観点からみる機会があった。障害を持ちながらも生活することはどういうことかについて利用者様の目線にて伝えることができる。								
<b>授業計画・内容</b>								
1	オリエンテーション							
2	ADLの全体像／アプローチ方法							
3	起居動作について考える							
4	移乗動作について考える							
5	移動動作について考える							
6	食事動作について考える							
7	入浴動作について考える							
8	排泄動作について考える							
9	整容動作について考える							
10	コミュニケーションについて考える							
11	評価 FIMの概要の把握と実際の判定基準①							
12	評価 FIMの概要の把握と実際の判定基準②							
13	評価 FIMの概要の把握と実際の判定基準③							
14	評価 FIMの概要の把握と実際の判定基準④							
15	評価 Barthel Indexの概要と実際の判定基準							
評価方法	筆記試験100% 持ち込みは不可(ただしFIMに関する配布資料の持ち込みは可)							
自由記述 (メッセージ)	教科書の他にも「クリニカル作業療法シリーズ 福祉用具・住環境整備の作業療法 中央法規」も参照してください。							

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科						
授業名・属性	日常生活活動援助学実習		必修	2年後期	20コマ・40時間				
担当教員	中村由美・中浦俊一郎	背景	作業療法士歴11年						
授業形態	実技	実務家教員 である							
受講ルール	動きやすい服装(スカート不可)								
受講条件	特になし								
教科書等	ADLとその周辺 第3版 医学書院 ¥6,480								
授業概要	作業療法士として日常生活活動(以下ADL)に関する指導・援助ができるように各種疾患についてのADL上の問題と指導・援助方法を習得する。								
狙いと到達目標	①ADLの指導・援助の基本的な考え方を理解し説明できる。 ②各種疾患のADL上の問題を想起、説明できる。 ③各種疾患の特徴を踏まえ主たるADL障害に対する指導・援助方法を実習を通して習得する。								
授業において実務経験をどのように生かすか	臨床での経験を生かし実技指導を行う。								
授業計画・内容									
1	オリエンテーション(ADL指導・援助の基本的な考え方を理解する)								
2	脳卒中(片麻痺)	障害の概要・ポジショニング							
3		起居動作・立ち上がり							
4		移乗動作・移動(歩行・階段昇降)							
5		トイレ動作							
6		更衣動作(大きめのズボンとかぶりシャツ、前開きシャツ用意)							
7		入浴動作・家事の工夫							
8	脊髄損傷(頸髄損傷)	障害の概要・寝返り							
9		起き上がり・床上移動・移乗動作							
10		移乗動作・除圧動作 車いす操作							
11		更衣動作(大きめのズボンとかぶりシャツ、前開きシャツ用意)							
12	脊髄小脳変性症	障害の概要・残存能力を生かした援助							
13	筋委縮性側索硬化症								
14	関節リウマチ								
15	筋ジストロフィー								
16	パーキンソン病								
17	自助具作成	○各疾患と自助具の適応について整理できる ○自助具を作成する ○症例検討にて自助具作成のアイデアを話し合う							
18									
19									
20									
評価方法	実技試験100%								
自由記述 (メッセージ)	それぞれの疾患の特徴について復習してから授業に臨むこと。 (身体障害治療作業療法学の復習)								

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科																																
授業名・属性	義肢装具学		必修	2年後期	15コマ・ 30時間																														
担当教員	中浦俊一郎・阿部幸一郎・佐々木亮平		背景 作業療法士歴22年																																
授業形態	講義	実務家教員である																																	
受講ルール	共通ルール+実習着ルール																																		
受講条件	特記なし																																		
教科書等	大庭潤平編著「義肢装具と作業療法 評価から実践まで」医歯薬出版株式会社2017																																		
授業概要	<p>1.対象者の障害に応じた上下肢装具・義手、義足の活用方法を知るために、構造や適合を理解する          2.臨床で上下肢装具・義手、義足を活用するために、上下肢装具や義手、義足体験をする</p>																																		
狙いと到達目標	<p>1.義肢装具療法における療法士の役割を述べることができる          2.義肢装具療法の目的を述べることができる          3.義肢装具療法の適合判定を記載できる          4.ドレッシング法を体験し、ドレッシング方法を説明できる</p>																																		
授業において実務経験をどのように生かすか	当科目は下肢を中心に佐々木亮平(有資格)が担当し、上肢は中浦俊一郎が担当して、その実務経験を授業内容において、より臨床的な内容になるように生かす。																																		
授業計画・内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td>講義 下肢装具・下肢義足 総論～下肢装具各論(目的、適応、構成要素)</td></tr> <tr><td>2</td><td>講義 下肢装具各論(短下肢装具・長下肢装具)</td></tr> <tr><td>3</td><td>演習 下肢装具と体幹装具体験</td></tr> <tr><td>4</td><td>講義 義足各論(切断原因、切断部位と義足、断端ケア、義足の構造)</td></tr> <tr><td>5</td><td>演習 下肢切断のリハビリテーション(良肢位、ソフトドレッシング)</td></tr> <tr><td>6</td><td>講義 上肢装具の適用と切断肢評価</td></tr> <tr><td>7</td><td>講義 義手の構造と分類</td></tr> <tr><td>8</td><td>講義 義手のチェックアウト</td></tr> <tr><td>9</td><td>講義 義手装着訓練と日常生活への適応</td></tr> <tr><td>10</td><td>講義 各疾患と装具(スプリント)の適合①</td></tr> <tr><td>11</td><td>講義 各疾患と装具(スプリント)の適合②</td></tr> <tr><td>12</td><td>演習 スプリントの作成①</td></tr> <tr><td>13</td><td>演習 スプリントの作成②</td></tr> <tr><td>14</td><td>演習 スプリントの作成③</td></tr> <tr><td>15</td><td>演習 スプリントの作成④</td></tr> </table>					1	講義 下肢装具・下肢義足 総論～下肢装具各論(目的、適応、構成要素)	2	講義 下肢装具各論(短下肢装具・長下肢装具)	3	演習 下肢装具と体幹装具体験	4	講義 義足各論(切断原因、切断部位と義足、断端ケア、義足の構造)	5	演習 下肢切断のリハビリテーション(良肢位、ソフトドレッシング)	6	講義 上肢装具の適用と切断肢評価	7	講義 義手の構造と分類	8	講義 義手のチェックアウト	9	講義 義手装着訓練と日常生活への適応	10	講義 各疾患と装具(スプリント)の適合①	11	講義 各疾患と装具(スプリント)の適合②	12	演習 スプリントの作成①	13	演習 スプリントの作成②	14	演習 スプリントの作成③	15	演習 スプリントの作成④
1	講義 下肢装具・下肢義足 総論～下肢装具各論(目的、適応、構成要素)																																		
2	講義 下肢装具各論(短下肢装具・長下肢装具)																																		
3	演習 下肢装具と体幹装具体験																																		
4	講義 義足各論(切断原因、切断部位と義足、断端ケア、義足の構造)																																		
5	演習 下肢切断のリハビリテーション(良肢位、ソフトドレッシング)																																		
6	講義 上肢装具の適用と切断肢評価																																		
7	講義 義手の構造と分類																																		
8	講義 義手のチェックアウト																																		
9	講義 義手装着訓練と日常生活への適応																																		
10	講義 各疾患と装具(スプリント)の適合①																																		
11	講義 各疾患と装具(スプリント)の適合②																																		
12	演習 スプリントの作成①																																		
13	演習 スプリントの作成②																																		
14	演習 スプリントの作成③																																		
15	演習 スプリントの作成④																																		
評価方法	期末筆記試験(中浦50点 佐々木30点 30点満点)																																		
自由記述 (メッセージ)	<p>上肢装具や義手に比べて関りが薄くなりやすい下肢装具と義足ですが、臨床現場にでると一人の医療従事者として、またセラピストとして知っておくべき内容になっています。是非臨床に出たときに下肢装具・義足で困らないよう意識して講義に臨んで欲しいと思います(佐々木)。</p> <p>参考書：装具治療マニュアル 医歯薬出版、切断と義肢、医歯薬出版、手のスプリントのすべて 三輪書店</p>																																		

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名・属性	作業療法研究法Ⅰ		必修	2年後期	8コマ・16時間			
担当教員	丸山 優子	背景	作業療法士歴20年					
授業形態	講義	実務家教員である						
受講ルール	共通ルール							
受講条件	特になし							
教科書等	作業療法士のための研究法入門 鎌倉矩子他 三輪書店							
<b>授業概要</b>								
作業療法の研究の仕方について一連流れを理解し、研究に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。								
<b>狙いと到達目標</b>								
研究の一連の流れを講義にて理解する。また、文献レビューの方法を学び、テーマに沿った文献検索の方法や、文献の読み方や研究計画の立て方を理解する。								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>								
作業療法士として現場に立つ際の、『冷静な頭』と『温かい心』を組み合わせて対応していく経験から、物事を客観的にとらえていく方法・自分の中の問い合わせを深めていく方法に関する助言に生かすことができる。								
<b>授業計画・内容</b>								
1	研究の意義・流れ・倫理							
2	研究の類型(文献研究、調査研究)							
3	研究の類型(実験的研究、シングルケースデザイン)							
4	研究の類型(事例研究)							
5	文献検索の方法、文献レビュー							
6	文献検索の方法、文献レビュー							
7	文献検索の方法、文献レビュー							
8	研究計画書の書き方							
評価方法	レポート(文献レビュー50%、研究計画書50%)							
<b>自由記述 (メッセージ)</b>								

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床作業療法演習 I		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	中村 由美	背景	作業療法士歴11年		
授業形態	実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
授業概要	3日間、作業療法の臨床現場に出向き作業療法士の指導の下、検査・観察・面接の一部を体験する。リハビリテーションの各領域と現状を学習する。				
狙いと到達目標	作業療法臨床の現状への理解と見聞を深める。作業療法士の働きと対象疾患、作業療法で用いられる活動・道具への関心を高める。				
授業において実務経験をどのように生かすか	臨床での指導経験を生かす。				
授業計画・内容					
1	施設および作業療法室についてのオリエンテーションを受け、作業療法(士)の役割、作業活動の用い方、道具の用い方などに触れる。作業療法士の介入場面、対象者の観察を行い、記録する。許される範囲内で対象者に触れる機会(身障領域においてはROMT,MMT他の一部実施、精神領域においては対象者の状況に応じた適切な交流や面接等)を持ち、記録する。				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法	臨床作業療法演習チェックリスト、セミナー発表、ディリーノート				
自由記述 (メッセージ)					

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	臨床作業療法演習Ⅱ		必修	2年前期	20コマ・40時間
担当教員	加藤和貴	背景	作業療法士歴18年		
授業形態	実習	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
授業概要	4日間、臨床現場に出向き、資格ある作業療法士の指導のもと検査・観察・面接の一部を体験する。その他対象者の全体像の把握に必要な情報を収集し、学内にて情報の整理、統合を行い、評価実習に向け準備を行う				
狙いと到達目標	作業療法臨床の現状への理解と見聞を深める。作業療法士の働きと対象疾患、作業療法で用いられる活動・道具への関心を高める。対象者に対する検査・観察・面接の一部を体験する。				
授業において実務経験をどのように生かすか	職務を遂行する上で最も有益だったのは臨床から学んだ経験知である。指導者としての経験をもとにより良い臨床体験となるよう指導を行う。				
授業計画・内容					
1	施設および作業療法室についてのオリエンテーションを受け、作業療法(士)の役割、作業活動の用い方、道具の用い方などに触れる。作業療法士の介入場面、対象者の観察を行い、記録する。許される範囲内で対象者に触れる機会(身障領域においてはROMT,MMT他の一部実施、精神領域においては対象者の状況に応じた適切な交流や面接等)を持ち、記録する。 また、2年生ではより専門的な知識を学んでいくため、これらの学びのイメージが持てるような体験ができるることを望む。				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11	実習結果をまとめクラスの中で発表する。実習結果について振り返り、講評、指導を受ける。				
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法	臨床作業療法Ⅱチェックリスト				
自由記述 (メッセージ)	作業療法に関する答えは常に臨床現場にあります。演習先では指導者の思いや、対象者の思いに触れることになります。実習生はリアルで濃厚な関わりに自我が揺れる経験をするかもしれません。しかしそれは皆が通ってきた、そして通るべき道です。4日間の機会ですが悔いのないよう学んできてほしいと思います。皆さんのが集中して学べるようサポートします。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科	
授業名・属性	環境整備論	必修	2年後期	12コマ・24時間
担当教員	中浦 俊一郎	背景	作業療法士歴22年	
授業形態	講義	実務家教員	である	
受講ルール	共通ルール			
受講条件	特になし			
教科書等	標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 医学書院			
授業概要	<p>作業療法士において環境因子への関心は必須であり、対象の方の利点を最大限に生かすために欠かせないアプローチ方法の一つでもある。様々な疾患の状態像に合った用具の選定においては疾患の知識に加えて用具の特性を把握しておくことも同じように重要である。また、住宅改修においては対象の方の状態に合わせて住環境を整えていく必要もあり、作業療法士だけではアプローチできない場合もある。福祉用具も同様だが、他職種との情報や目標の共有が必要であり、この共有のプロセスにも触れ、学習していく。</p>			
狙いと到達目標				
一般目標:	環境整備についての基本知識と適合技術の習得ができる			
行動目標:	<ul style="list-style-type: none"> <li>①環境を整備する意義を説明できる</li> <li>②疾患の特性と環境の特性を整理できる</li> <li>③建築関係の基本的知識を想起できる</li> <li>④住宅改修の事例にて対象者と住宅改修のマッチングについて判定できる</li> </ul>			
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>訪問作業療法に携わる中で、建築関係、福祉用具関係の職種と関わる機会を多く持つことができた。適合における多職種への配慮や連携の取り方についても伝えることができる。</p>			
授業計画・内容				
1	生活上における福祉用具の役割			
2	ベッド・床上動作関連			
3	移乗関連			
4	移動関連			
5	食事関連			
6	整容関連			
7	更衣関連			
8	入浴関連			
9	排泄関連			
10	コミュニケーション・環境制御装置関連			
11	住宅改修の基礎知識①			
12	住宅改修の基礎知識②			
評価方法	筆記試験 100% 試験当日はA4用紙2枚までの資料を持参しても構わない(ただし、裏表の場合は1枚とする)。			
自由記述 (メッセージ)	参考書:OT・PTのための住環境整備論 第2版 三輪書店 国際福祉機器展へ参加する予定である。その後の振り返りを授業内に入れるため、項目が前後する可能性がある。			

## 実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科					
授業名,属性	臨床実習 I -1及び I -2(評価実習 I / II)		必修	2年後期	(68コマ・135時間) × 2期			
担当教員	加藤和貴	背景	作業療法士歴18年					
授業形態	実習	実務家教員 である						
受講ルール	共通ルール+実習着ルール							
受講条件	特になし							
教科書等	特になし							
<b>授業概要</b> 実際に医療機関へ行き、自己学習や指導者による助言・対象者とのやり取りなどから、検査・観察・面接から得られた情報を統合整理し、全体像を把握した上で目標を立てる。実習後は校内で発表を行い、教員と振り返りを行い経験を深める。								
<b>狙いと到達目標</b> 臨床現場での作業療法士としての基本的な態度を指導者の助言のもと修得する。指導者の指導のもと作業療法、及び作業療法士の役割機能を学び、対象者の全体像を把握するために必要な評価方法を理解し実施できる。評価に基づき、問題点の一部を提示し、目標設定を行う。その他対象者の全体像の把握に必要な情報を収集し、学内にて情報の整理、統合を行い、作業療法実施に必要な評価を身につける。								
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 職務を遂行する上で最も有益だったのは臨床から学んだ経験知である。 指導者としての経験をもとにより良い臨床体験となるよう指導を行う。								
<b>授業計画・内容</b> (以下をⅠ期Ⅱ期の二期行う)								
1週目	施設の概要・作業療法の役割を知る。対象者に関わり初期評価を行う。							
2週目	指導者の指導のもと作業療法評価の理解を深め実施していく。評価結果から得られる情報を統合し、対象者に必要な作業活動を考える							
3週目	評価結果から得られる情報を統合し、対象者に必要な作業活動を考え可能化する計画を立てる							
評価方法	臨床評価実習学生評定表、学内評定表							
自由記述 (メッセージ)	作業療法に関する答えは対象者と皆さんの間に存在します。学校での学びはそのことを考える手がかりにすぎません。担当した方々としっかりと向き合い、指導者からのアドバイスを糧とし、作業療法の面白さを経験してください。教員も全力でサポートします。							